

コープえひめ福祉活動基金 事業報告書

事業名 砥部焼企業との協働事業で障害者の就業を進める。

特定非営利活動法人 ふうしすてむ
副理事長 二神 重則

はじめに

私共、特定非営利活動法人「ふうしすてむ」は、パソコンを使って障害者の活動と就業を支援しています。特にここ3年間は民間の助成金などを活用させてもらいながら、就業支援の講習会や実務訓練などを年間10～20シリーズ開催しました。これらに参加した人の一般就業は、今年度は6人と年々増加しています。しかし、体力や通勤などの理由で定着が難し人も多くおられました。

昨今、自由な時間に働ける在宅就業（SOHO）が増加しています。パソコンを使った作業は在宅でも可能であり、作業時間を選ばず、データ転送も簡単に行え、作業単価も高いという特徴があります。そのようなところからインターネットと在宅就業を組み合わせた作業グループを考えました。グループで助け合う事により休業等のリスクを回避できます。また課題として考えられる、パソコン技術の学習やメンテナンス、営業などを支える機能を持ったものが有れば障害者による在宅就業は可能になります。

その様な事から昨年、障害者在宅就業ネットワークとセンター機能を持った「マニファクチャBU」を設立しました。1年が経過し、少しずつではありますが受注量も増えています。将来的には障害者在宅就業支援団体の登録や、我々自身による障害者雇用も視野に拡大したいと思っています。

2007年4月に作業場を砥部町八倉に移転し、事業の拠点を砥部にもと思っています。その様なところから、地元の砥部焼きを生かした就業が出来ないだろうかと試行しました。私共のような経済基盤の弱いNPO法人には、自力で新しい試みに投資する金銭的な余裕がありませんでした、ご支援や御協力いただいた皆様に深く感謝しています。

助成により行なうことの出来た、いくつかの団体が協力し合うという事業は、これからの障害者就業の1つのモデルになればと思っています。

今回実施を計画した事業について。

1.企業やその他の団体との共同事業

砥部焼き企業・ハイサブ・ふうしすてむ・障害者福祉施設・デザインボランティアの共同事業を計画

2.家紋や統一したデザインが印刷のように焼けないか？

子供は筆で描くのが難しいので、シールの様なものが開発できないか？

陶板などに写真の焼付けを行い、お祝いものとして販売できないか？

インターネットの利用？

結果

1. 砥部焼き企業として「砥部焼き観光センター」のご協力が得られました。

デザインボランティアは、現状必要としているところまで至っていません。

2. 家紋などを印刷のように出来ないか

プリントゴッコを購入し、水性と油性の溶剤を各種購入試行しましたが望ましい結果は得られず、引き続き開発を進めたいと思っています。

シールについては、シールカッターが高価なため予算の関係で試行は断念しました。

3. 陶板

見本を数点作成し「砥部焼き観光センター」事務所に展示しお客さんの反応を見ました。チラシを作成し07年の春から本格的な販売に踏み切りたいと思っています。

4. 障害者施設との共同

陶板を飾るための木製台や額を砥部町内の福祉施設に注文しようと思ったのですが見つからず、松山市伊台にある身体障害者授産施設にお願いしました。また、陶板の写真貼り付けも同様でした。殆どの人が地元ではなく松山のほうに行っている現状がうかがわれます。尚、安定した仕事量を確保しないと受ける場所が無いのも分かりました。我々と同様、将来の夢では食ってゆけない現実があります。

5. その他

障害者自立支援法で障害者の就業環境が大きく変わろうとしています。地域で障害者が安心して住むことが出来るようにするにはを課題に、3月25日に砥部町文化会館にて講演会を開催しました。

今後の展開

1. 陶板への写真焼付けは記念品として販売し、これからの開発はペットの写真を貼るグッズの開発に取り組みたいと思っています。

2. 観光センターの有力者より新しい就業の提案がありました。有望であり、検討し協力者を募り実施して行きたいと思っています。

3. 障害者の働く場を作るのに、ある程度の規模の大きさが求められます、企業やその他の団体との共同事業は進めて行く必要があります。